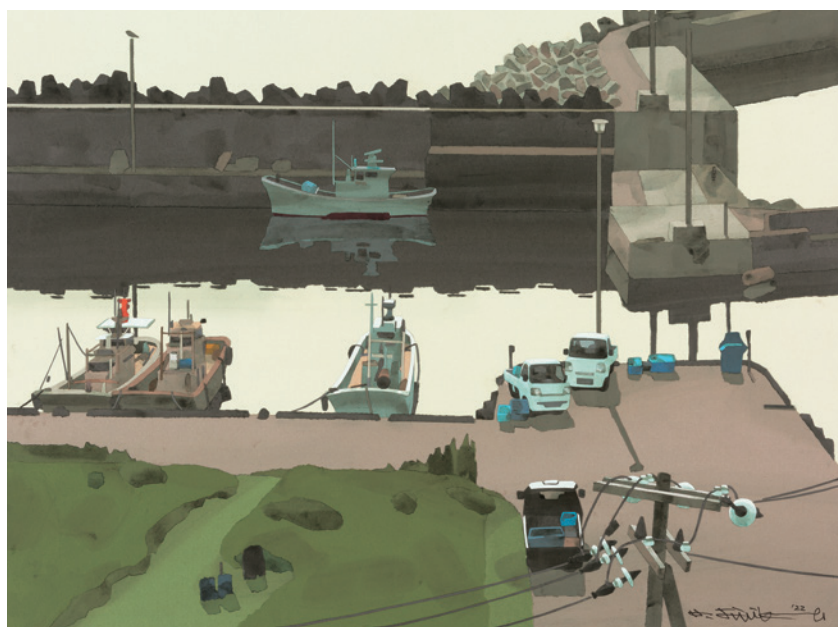


冬から春の藤倉英幸展

# 北岬 回遊

なぜ岬はそんなにも人をひきつけるのだろう。  
いくつもの岬をたずねて、灯台にたたずんだ。  
行く先々で漁港に寄り、カモメと船に語りかけた。  
海沿いの道は私をちよつと詩人にする。

藤倉英幸



藤倉英幸《天売の漁港1》2022年 はり絵 当館蔵

有島武郎没後100年記念事業

2023 2024  
11/25(土) ~ 4/14(日)

開館時間 / 9:00~17:00 (最終入場 16:30)  
休館日 / 月曜日 (ただし祝日の場合は翌日休)、  
年末年始 (12月31日~1月5日)

常設展観覧料のみで鑑賞できます

一般500円 / 高校生100円  
中学生以下と65歳以上のニセコ町民は無料  
主催 / 有島記念館

ニセコ・有島記念館

NISEKO, ARISHIMA TAKEO MEMORIAL MUSEUM  
〒048-1531 北海道虻田郡ニセコ町字有島57番地 Tel 0136-44-3245



藤倉英幸《天売島》2011年 はり絵 当館蔵



北海道は島なのです。ですから、まわりはすべて海に囲まれています—  
あたりまえではありますが、そう考えると、奥が深い。海と陸との境には海岸が  
あります。岬もあります。港もあります。海を糧とする人々の生活もあります。そして、  
それらは北海道の魅力でもあります。

本展では「北岬回遊」と題して、イラストレーター・藤倉英幸(1948-)が魅力  
溢れる北海道各地の岬を描いた作品を中心に、海辺にまつわるさまざまな  
作品を紹介します。

藤倉は海辺に面した北海道泊村で18歳まで過ごしました。ニシンの産卵で海が  
白む春の日、磯で遊んだ夏の日、山々の紅葉が海を赤くする秋の日、海からの波濤  
が真横に吹き荒ぶ冬の日—泊村での海辺の記憶を自らの「原風景」として、現在  
に至るまで北海道の岬や漁村、港など海辺の風景を多く描いています。

時には美しく、時には優しく、時には厳しい表情を見せる北海道の岬や海辺。  
作品を通して北海道の海辺の風景の魅力を感じてみてはいかがでしょうか。



藤倉英幸《ノサップ岬》2011年 はり絵 当館蔵



藤倉英幸《焼尻の漁港》2021年 はり絵 当館蔵

# 冬から春の藤倉英幸展 北岬回遊

なぜ岬はそんなにも人をひきつけるのだろうか。  
いくつもの岬をたずねて、灯台にたたずんだ。  
行く先々で漁港に寄り、カモメと船に語りかけた。  
海沿いの道は私をちよつと詩人にする。

藤倉英幸



藤倉英幸《流氷岬》2001年 はり絵 当館蔵



## 藤倉 英幸

FUJIKURA, HIDEYUKI

1948年、北海道後志管内島野村(現・岩内町)生まれ。1974年にイラストレーターとして独立し、ポスター、パッケージ、装丁など商業デザインを幅広く手がける。1980年代に入ると、北海道の風景や人々の生活に目を向けた「切り絵」作品を発表。80年代後半からは「はり絵」による風景画を本格的に描きはじめ、自身のライフワークとする。その作品は、JR北海道車内誌表紙絵をはじめ、菓子や牛乳パッケージなどで広く親しまれている。『静かな風を聴きながら』(2013年、共同文化社)など画集多数。2017年にはり絵原画やポスターなどの印刷物約1万点をニセコ・有島記念館に寄贈。夏と冬に同館で定期展覧会を開催。

[交通アクセス] 自家用車 — 札幌、新千歳空港より自家用車で約2時間  
J R — ニセコ駅より徒歩約30分(約2.5km)、タクシー5分  
バ ス — 道南バス(倶知安駅発)「有島記念館前」下車徒歩5分  
[ 駐 車 場 ] 自家用車用約30台・大型バス用約15台完備

ニセコ・有島記念館

NISEKO, ARISHIMA TAKEO MEMORIAL MUSEUM  
〒048-1531 北海道虻田郡ニセコ町有島57番地 Tel 0136-44-3245

